

静岡市における高等教育のあり方について

デスクッションペーパー

経営学者

元法政大学大学院教授 坂本光司

1. はじめに

2. 都市を巡る環境変化と対策

- (1) 人口減少時代に伴う、人どり・企業どりを巡る都市間競争の激化
- (2) アジアからの観光客や就業希望者・留学希望者の増大
- (3) 知識基盤社会の進行
- (4) 人生 100 年時代における地域住民の知的高度化と生涯学習意欲の高まり
- (5) 労働力人口、とりわけ若年人口の市外への流出
- (6) 高度高速交通網の整備拡充に伴う人の移動の活発化

3. 静岡市の近年の現状と課題

- (1) 大幅かつ急激な人口減少
 - ①自然減・社会減の同時進行
 - ②生産年齢人口、とりわけ 20 歳代や 30 歳代の若者の、著しい流出と流入不足
 - ③アンバランスな年齢構成と高まる高齢化率
 - ④都市イメージが比較劣位化
- (2) 企業の活力低下
 - ①民営事業所の減少
 - ②増加しない雇用
 - ③企業活力の低下
 - ④起業家活動の低下による低い開業率

4. 静岡市の課題は、一時的対策ではなく構造的対策が必要

- ①ノードの魅力度アップ対策
- ②都市基盤の魅力度アップ対策
- ③構造的問題の除去対策

5. 求められる静岡市における抜本的な対策

- (1) 人とりわけ若者の流出防止及び流入増の抜本的対策

- (2) その受け皿となる魅力的企業・魅力的高等教育機関の立地・集積に関する抜本的対策
- (3) 環境変化に対応した都市力の充実・強化
- (4) 静岡市の都市イメージを変え・高める強力なシンボル創出対策

6. 魅力的都市とは

- ①魅力的な企業の存在
- ②魅力的な仕事の存在
- ③魅力的な教育機関や生涯学習の場の存在
- ④魅力的な生活空間（買い物空間・遊空間等）の存在
- ⑤魅力的な市民・地域コミュニティーの存在
- ⑥魅力的な都市ビジョンの存在
- ⑦魅力的な交通ネットワークの存在
- ⑧その他

6. 静岡市の課題解決と高等教育機関の効果

(1) 目的と手段

- ①目的は静岡市の課題解決と、魅力的かつ活力ある都市の創造
- ②目的を実現するための有力な手段の1つが高等教育機関
- ③高等教育機関の充実強化は、都市を巡る環境変化の対策に全て寄与する

(2) 県都静岡市における高等教育機関の現状と課題

- ①他の政令市と比較し、大学の収容定員が決定的に不足
- ②他の政令市と比較し、社会人を対象とした大学院の収容定員が決定的に不足
- ③他県と比較し地元大学進学率が極端に低い
- ④他県と比較し、社会人の地元大学院進学率が決定的に不足
- ⑤他の政令市と比較しとりわけ県内私立大学の学生数と県内私立大学への進学率が極端に低い

(3) 魅力的高等教育機関の立地・集積と静岡市の課題解決

- ①地元大学進学率の向上による若者の流出防止
- ②地域企業への人財供給力の向上
- ③地域外からの大学入学希望者や社会人の流入増加
- ④地元出身大学卒業生の地域企業への入職の増加
- ⑤地域外出身大学生の地域への定住の増加
- ⑥アジアからの留学生の増加による人口増加

- ⑦留学生の地域企業への入職の増加による人口増加
- ⑧地域企業の経営者や後継者・社員、さらには起業家や企業支援者等の学ぶ機会の増加による人財力の強化・企業の魅力度アップ
- ⑨地域内で学ぶ機会の増加による市民、とりわけ社会人の高度人財化
- ⑩有力な研究者の招聘による地域企業などへの支援力の強化
- ⑪有力な研究者の招聘による地域からの情報発信力の充実・強化

7. 魅力的高等教育の展開方策

(1) ソフトな高等教育の充実強化とハードな高等教育の充実強化

①ソフトな高等教育の充実強化の方策

- イ. 既存の大学・大学院の魅力度アップ
- ロ. 地域の大学・大学院の戦略的連携強化
- ハ. 全国各地の大学や大学院と連携した学習機会の増加
- ニ. インターネットを活用した学習機会の増加

②ハードな高等教育機関の充実強化の方策

- イ. 市内の既存大学、とりわけ私立大学の魅力度アップ対策
- ロ. 市内の既存大学の定員増対策
- ハ. 市内の既存大学に新学部や新研究科の創設
- ニ. 市外の既存の魅力的大学やその学部、あるいは大学院研究科の誘致
- ホ. 市内の既存の魅力的大学に寄付学部・寄付研究科として開学（対外的には独立大学・大学院）
- ヘ. 市内外の魅力的専門大学の開学支援
- ト. 静岡市立大学の開学
- チ. 専門職大学院静岡市立大学院大学の開学
- リ. その他

(2) 静岡市立大学または専門職大学院静岡市立大学院大学開学構想が効果的

- ①公立のブランド
- ②偏差値
- ③約 50%は県外学生
- ④授業料

(3) 静岡市立大学または専門職大学院静岡市立大学院大学開学パターン

- ①静岡市が設置者となり静岡市立大学の開学
- ②静岡市が設置者となり専門職大学院の開学
- ③静岡市内の私立大学の求めに応じ公立化
- ④市内外の学校法人と連携し連合（連携）大学院大学の開学

(4) 設置する学部・研究科

①経営系・商業系学部

地域に決定的に不足する理系は県立専門学校の大学化構想や、企業内大学の充実強化の動き、さらには投下資本の問題等がある。又地域企業の活力強化と人財不足対策を支援することが急務である。

こうしたことを踏まえると、文系、とりわけ経営系の学部（中小企業学部・起業学部・人財学部等）が考えられる

②経営大学院

経営者や後継者、さらには起業家や企業支援者等の高度な学びの場の創出という観点からは、専門職大学院「経営学研究科・中小企業経営研究科・人財経営研究科等」が考えられる

③静岡市立専門職大学院「中小企業経営大学院大学」（経営大学院）が望ましい。

単に若者の流出対策ならば、多くの若者の定住増加に寄与すると思われる、学生数の多い「大学」の開学が望ましい。

しかしながら、静岡市の現在進行する課題解決のための緊急性・スピード・投下資本、さらには18歳人口の減少や、経営者・後継者をはじめとした社会人の教育の場も決定的不足等といった観点から考えると、まずは専門職大学院（経営大学院）の開学が効果的と思われる。

というのは、まずは、大学卒業生等学生や社会人の受け皿としての市内企業の魅力度アップこそが必要だからである

④要は教員

8. その他

- (1) 市の課題や市の高等教育機関に関する関係者の知識・情報が少なく、誤解もある
- (2) 静岡市の未来に関する市民の問題意識・危機意識が弱い
- (3) 人は夢と希望のある苦労や不便は耐えられるが、その無い苦労や不便は耐えられない
- (4) 焼津市や藤枝市は経済研・生活圏の実態は静岡圏であり、連携しながら進めるべき

9. おわりに